

令和6年度 がめ川オイルフェンスごみ回収調査事業の結果概要について

[環境政策課]

1 事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの8割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものであるとの報告があることから、市内の準用河川にオイルフェンス設置して、流れるごみを回収してその実態を把握し、陸域から海洋への効果的なごみの流出防止に資することを目的とする。

2 取組概要

<オイルフェンスの設置>

がめ川にオイルフェンスを2カ月間設置した。設置は24時間。ごみの回収については毎週火曜日の週1回を基本とし、荒天等による増水が予想された時にも事前のごみの回収を行った。

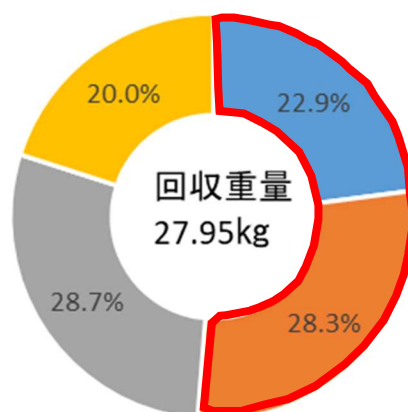
箇所	設置したもの	設置期間	管理主体
がめ川	オイルフェンス	R6.7.23～R6.9.17	市道路河川管理課

<回収結果>

重量の合計は、「ペットボトル以外のプラスチック」が6.41kg、「ペットボトル」が7.92kg、「缶・ビン」は8.02kg、「その他」は5.60kgとなっている。（落ち葉等は28.58kg）

重量の割合（落ち葉等を除く）については、「ペットボトル以外のプラスチック」が22.9%、「ペットボトル」が28.3%、「缶・ビン」は28.2%、「その他」は20%となっている。

ごみの組成分析結果一覧（落ち葉等を除く）



プラスチックごみ
の割合51%

■ ペットボトル以外プラ ■ ペットボトル ■ 缶・ビン ■ その他

今回の調査の結果、特定の人物や店舗からの投棄と思われる同じ種類の空き缶が多く回収された。また、弁当容器やレジ袋などポイ捨てか、コンビニエンスストア等のゴミ箱から管理不足により漏れ出たと思われるごみが回収された。



週一回で回収されたペットボトル



同じ種類の空き缶



落ちてしまったと思われるボール



手つかずの野菜



たばこの吸い殻

(2) <小学生への特別授業>

環境教育の一環として、市では小学4～6年生を対象に「海洋ごみに関する小学生への特別授業」を行っている。令和6年度は4校（浜黒崎小学校、水橋中部小学校、大広田小学校、大久保小学校）で実施し計163人の児童が参加した。

知る

① バスツアー（浜黒崎小学校、水橋中部小学校、大広田小学校、大久保小学校）

まず、がめ川に設置してあるオイルフェンスを見学し、街中を流れる河川にごみが流れている現状を学んだ。その後岩瀬浜でのごみ拾いを通じて、どのくらいのごみが海に流れ着いているかを知った。ツアー最後にはまとめの講義を受け、海洋ごみについての知識を深めた。



オイルフェンス見学



岩瀬浜でのごみ拾い

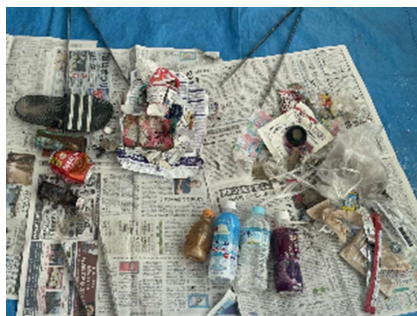
学ぶ

② ごみマップ作製（浜黒崎小学校、水橋中部小学校、大広田小学校）

海洋ごみにつながるごみが自分たちの校区に落ちていないかを調査した。自分たちの通学路に、実はごみが多く落ちていることを学んだ。



校区のごみを調査



調査で回収されたごみ



回収したごみを分類

伝える

③ 学習発表会（浜黒崎小学校）

浜黒崎小学校では海洋ごみについて学んだことをスライドにまとめ、ごみを減らすにはどうしたらよいか考えたこと、クラスで実践したことなどを学習発表会で発表しました。



学習発表会の様子